

令和2年度 国際教育学科 中期日程入学試験講評

問題は、英文読解問題と英語・日本語での表現力をみる問題から構成されている。読解問題では、的確に英文の内容を把握できるかをみている。その上で、内容に関して英文で表現できるか、自分の意見を日本語で筋道立てて展開できるか、をみている。

出題意図

文字を書く行為の歴史的变化に関する英文記事を題材に、英文の内容を正確に読み解いた上で、それを英語で表現する力、さらに自分の主張を日本語で論理的に表現する力をみている。国際教育学科の受験生には英語と日本語で正確に読み書きする能力がまさしく求められているわけだが、そもそも文字の読み書きとは本質的にどのような行為なのか、それはいかなる歴史的・技術的な条件に規定されているのか、それを踏まえた上でどのようなリテラシー教育がいま必要とされているのかを考えてもらいたいという意図で出題した。

評価のポイント（長文問題）

問7

(1) 本文内容の要点を正確に読み取り、それを英語で簡潔に表現する力をみている。具体例を引くという問題文の指示に従って、文字を書く行為がどのような変化を遂げてきたのかについて、その経過、原因、影響などを説明する必要がある。また、思考の伝達や判断の付随といった本質的な性質は歴史を通じて変化していないという点にも言及したい。

(2) 説得力のある根拠や具体例を示しながら自分の主張を簡潔かつ論理的に説明できるかをみた。本文に例示されているようなライティングの歴史的变化を踏まえたうえで、文字の教育に関する自分の主張に論理的に接続することが求められている。

答案の傾向

問1

ほとんどの受験生が正解を選ぶことができていた。

問2

簡単な英文であるが予想外に誤訳が多く、ほとんどの受験生ができていなかった。

問3

概ね正解を選ぶことができていた。

問 4

正答率は低かった。

問 5

Vital signs の意味を文脈に即して適切に理解している解答は少なかった。

問題文をよく読まず、50 字以上で解答している者も少数いた。

問 6

概ね正解を選ぶことができていたが、すべての選択肢を正解できた受験生は少なかった。

問 7

(1) 歴史上で具体的な書くスタイルについて列記出来ていた回答は見られたが書くという形態は変化しているが思考の伝達を目的としているなどの本質的な部分は変わらないという点をはっきり書いている答案はほとんどみられなかった。

(2) 歴史的な展開に具体的に触れている回答は少なく、根拠や例を提示している答案は見られたが、それらが自分の経験だけに基づいていたり、自分の主張に対する反対意見を想定できていないために、説得的でない場合が多かった。